平成30年度　府民意見交換会in山城　西脇知事と行き活きトーク

日時：平成30年12月15日（土）10:30～12:00

場所：宇治茶会館　大ホール

○司会　それでは、平成30年度「府民意見交換会」in山城「西脇知事と行き活きトーク」を始めさせていただきます。

京都府では現在、山城地域振興計画を含む、新しい総合計画の策定を進めています。府民の皆様とともに京都府の将来像を描くに当たって、知事が府内を回って皆様との意見交換を行っており、本日は、ここ山城地域での開催になります。

改めまして、本日の司会を務めさせていただきます、京都府山城広域振興局の吉岡と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

では、はじめに、京都府知事、西脇隆俊よりご挨拶を申し上げます。

○西脇知事　皆様、おはようございます。

本日は、新しい総合計画策定のための府民意見交換会にご参加いただき、本当にありがとうございます。

さて、今年は本当に多くの災害が発生しました。３日前には「今年の漢字」が発表されましたが、災害の「災」という字が選ばれたところです。京都でも、北部地震、７月豪雨、度重なる台風と、次々と災害に見舞われました。この山城地域でも、文化財やビニールハウス、茶園などの被害も非常に多く、６月、９月議会には合わせて164億円の補正予算を、そして、現在開会中の12月議会にも、国の補正予算を活用した６億円の補正予算のご審議をお願いしております。全力を挙げて復旧、復興に取り組んでおりますので、引き続き皆さんのご支援を賜ればありがたく存じます。

さて、これから私たちは、経験したことのない少子化や人口減少社会、2025年には団塊の世代が後期高齢者になるという高齢化の問題に向き合うこととなります。また、度重なる災害などの課題についても立ち向かわなければなりません。

その一方で、京都ではインフラ整備が進み、2021年には文化庁が来ます。また、最近では、2025年の大阪・関西万博が決まったところですが、インバウンドを含めた観光客も非常にたくさん訪れております。総合計画の策定においては、そのような京都の持っている強み、この山城地域が持っている強みを生かして、どのような未来像を描いていくかということを、本日も含め、いろんな場面でご意見を賜れればと思っております。

○司会　本日はご多忙な中、市長村長の皆様にも会場にお越しいただいておりますので、ご紹介いたします。

宇治市長の山本正様です。

八幡市長の堀口文昭様です。

京田辺市長の石井明三様です。

木津川市長の河井規子様です。

久御山町長の信貴康孝様です。

宇治田原町長の西谷信夫様です。

笠置町長の西村典夫様です。

和束町長の堀忠雄様です。

精華町長の木村要様です。

南山城村村長の手仲圓容様です。

城陽市副市長の今西仲雄様です。

長岡京市副市長の佐々谷明光様です。

井手町副町長の中谷浩三様です。

なお、向日市からは、清水ふるさと創生推進部長様にご出席をいただいております。

また、本日は、京都府議会議員の皆様にも、会場にお越しいただいておりますので、ご紹介いたします。

京都府議会議長の村田正治様です。

伏見区選出の渡辺邦子様です。

南区選出の秋田公司様です。

京田辺市・綴喜郡選出の尾形賢様です。

木津川市・相楽郡選出の兎本和久様です。

宇治市・久世郡選出の藤山裕紀子様です。

城陽市選出の園崎弘道様です。

北区選出の岸本裕一様です。

亀岡市選出の中村正孝様です。

向日市選出の磯野勝様です。

城陽市選出の酒井常雄様です。

宇治市・久世郡選出の田中美貴子様です。

長岡京市・乙訓郡選出の堤淳太様です。

本日のコーディネーターは、新山城振興計画策定懇話会の委員で、龍谷大学政策学部教授、白須正様にお願いしております。

それでは、ここからの進行は、白須様にお願いしたいと思います。

白須様、よろしくお願いいたします。

○白須正　皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、本日の進行役を務めさせていただきます白須正でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、本日は、冒頭の知事のご挨拶にもありましたとおり、山城地域振興計画を含む、京都府の新しい総合計画の検討を行うに当たりまして、府民の皆様のご意見をいただくため、「お茶を飲みながら山城の未来づくりを話しましょう」というテーマで、地域でご活躍されているパネリストの皆様方と知事との意見交換を行います。

それでは、ご登壇いただいております方々を、私からご紹介いたします。

京都文教大学総合社会学部教授、森正美様です。

向日市観光協会会長、西川克巳様です。

京都やましろ農業協同組合代表理事組合長、十川洋美様です。

城陽商工会議所会頭、堀井美郎様です。

公益社団法人京都府茶業会議所専務理事、森下康弘様です。

西脇隆俊京都府知事です。

さて、これから意見交換に入りますが、皆様にお願いがございます。皆様方のお手元には、知事やパネリストの方への質問やご提案を書いていただくための付箋を、次第に貼ってお配りしていると思います。今回、皆様方のご意見もお聞きしながら進めていきたいということで、11時20分ごろまでに、お名前とメッセージを付箋にご記入いただき、会場にいる係の者へお渡しください。時間の都合上、全てのご意見を紹介することはできませんが、ご了承いただきたいと思います。

それでは、これから意見交換を始めます。

はじめに、各パネリストの皆さん方から、自己紹介を含めまして、山城地域を元気にするために、現在、皆様方それぞれが行っておられる活動や取り組みについてお話しいただきたいと思います。

お一人目は、森下康弘さんです。よろしくお願いします。

○森下康弘　茶業会議所の森下でございます。よろしくお願いいたします。

西脇知事、皆様、本日はようこそ宇治茶会館へお越しくださいました。毎年、５月の八十八夜には、隣の茶畑で茶摘みの体験をして喜んでいただいております。当会議所は、今からおおよそ130年ぐらい前の明治中期に設立され、今では京都府の生産者さん750人と、商工業者の130社で構成されております。その大半がこの山城地区で活動をされています。

800年ぐらい前に中国から伝わりましたお茶は、栂尾の高山寺で栽培が始まりました。今も残る日本最古の高山寺の茶園の管理を含め、茶に関する多くの歴史的遺産や文化を保護して後世に伝えていくことも、この会議所の大変大きな役割でございます。春、秋には地元の興聖寺や、宇治上神社、そして平安神宮や北野天満宮など、さまざまなところでお茶にまつわる行事の開催やご支援をさせていただいております。

６年ほど前から、宇治茶を世界遺産にとのかけ声のもとで、さまざまな準備が始まっております。大変長い道のりですけれども、2015年には文化庁から「『日本茶800年の歴史散歩』～京都・山城～」が、日本遺産の第１号として認定されました。

さて、近年、抹茶ブームにより、宇治茶は新しい局面を迎えていると言っても過言ではありません。この地域は常に、時代に先駆けてさまざまなお茶のイノベーションを起こしてまいりました。その代表的なものが抹茶でございます。室町時代に覆いをして、茶を育てる方法がこの地で始まり、飲みやすい抹茶が生まれました。そして、安土桃山時代には、千利休によって「茶道」が大成されました。また、江戸時代に入りますと、今度は宇治田原のほうで、永谷宗円という人が煎茶を発明いたしまして、宇治市内ではその後、玉露が発明されています。今日、抹茶という言葉が世界の方々から認知をされつつあります。

飲料としての消費も多いですが、最近ではカフェメニューやスイーツの原料、そして健康食品としてのニーズもどんどん高まりつつあります。京都はもちろんですが、皆さんご存じのように、全国でも、外国人の方々も含め、本当に宇治茶は喜ばれていると認識しております。そしてつい先日も、京都府の皆さんと業界の重鎮がフランスへ行ってまいりました。パリで宇治茶のプロモーションを行いましたが、大変な盛況でございました。もう

３年間続いている行事ですが、海外への発信は食文化の中心のフランスから、という評価も高まっており、是非とも長く続けさせていただきたいと思っているところでございます。

これからも、充実した品評会の開催や、ＧＡＰやＨＡＣＣＰという制度の導入を通じて、安全で高品質なお茶の追求により、他の産地の追随を許さない、宇治茶ブランドの確立を目指しているところでございます。

○白須正　ありがとうございました。

それでは、続きまして、堀井美郎さんからお話しいただきたいと存じます。よろしくお願いします。

○堀井美郎　よろしくお願いいたします。城陽商工会議所の堀井と申します。年齢は68歳になります。副会頭を６年間経験させていただき、会頭になって２年と少しになります。会頭の任期は３年ですので、あと１年弱の任期でございます。新名神の建設凍結が解除され、城陽－八幡間が昨年の４月に完成し、会頭として思うのは、やはりまちづくりのことです。まちを変えていく中で、新市街地「サンフォルテ城陽」ができたりしております。

また、新名神高速道路では、城陽－大津の区間が2023年に開通しますが、それに目がけて城陽の東部丘陵地にアウトレットモール進出の計画があり、私もその委員をしております。昔は、いわゆる大店法の関係で、新たに大型の商業施設ができると、商工会議所が、開店時間や、休業日数、店舗面積に至るまで、何もかも調整しておりました。しかし、そのような時代は終わり、現在は、大きな商業施設が来るとなると、どのようにすれば地域の商業者の方もそこを生かせる場を作れるか、ということが重要になっています。今回のアウトレットモールの件においても、運営会社の方とも何回も意見交換をさせていただき、さらには城陽市にも入っていただき、６次産業化を目指した農商工連携を進めてきております。アウトレットモールの建設を南山城全体の活性化につなげたいと思っているところです。

一方で、商工会議所の会員も廃業によりどんどん減っております。何とかそれを止めないといけないということで、去年１年間、みんなで頑張りまして事業所が増えました。しかしながら、依然として廃業が続いている状況は変わっていません。「ジョーカン」という工業関係の企業の紹介誌や、「城陽日和」という市民の方と商業者をつなげる全戸配布の情報誌を発行しておりますので、将来的には、広く南山城全体で、情報の交換や共有ができたらいいなと思っております。

○白須正　ありがとうございます。

それでは、続きまして、十川洋美様のほうからお話いただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○十川洋美　ＪＡ京都山城組合長の十川でございます。よろしくお願いします。

さて、この９月に台風21号が山城管内を直撃し、農産物にも大きな被害が出ました。被害はパイプハウス1,000棟にも及びますが、いち早く西脇知事が現地に入っていただき、ご支援をまとめてくださいました。ありがとうございました。おかげで腰折れすることなく、今、再建に向かって農家が立ち上がっております。はじめにお礼を申し上げます。

山城管内も高齢化が非常に進んでいる地域ですが、そんな中、農業をどう元気にするかということについてＪＡの取り組みをお話しいたします。私どもには先人が築き上げた宇治茶と京野菜という２つの大きなブランドがありますが、お茶については、先ほど森下さんのほうからお話がありましたので、私からは、京野菜について申し上げたいと思っております。

京野菜につきましては、京都府に予算もつけていただき、私どももそれを最大限に活用させていただき、生産拡大を進めてまいりました。今まで米しかつくったことがない農家にも、補助金を使ってＪＡがビニールハウスをお貸しし、技術も支援することで、京野菜を中心に大きな広がりを見せております。それと、非常に消費地が近いということで、山城の農家は「個人で売る」ことをしていましたが、それでは市場に対応できないということで、今、部会をつくって８品目を共同販売していこうとしております。東京の豊洲に売ったり、イオンなどの量販店に売り込んだり、そんなことをしながら拡大を進めてきました。

それと併せて、ネギを洗浄して袋に入れるパック工場だとか、ネギを刻むカット工場、ナスの集出荷場など、そのような施設も整備してきました。これらは京都府と各市町村のご支援のおかげと感謝しているところです。

カット工場が、この４月から動き始めたのですが、これがうまく軌道に乗りまして、東京市場から近畿まで送るためのカットネギを、１日１万パック、毎日、土日の休みなしに生産するところまで発展してまいりました。これを生産しているネギの部会は、平均年齢45歳、26人がまとまってくれているんですが、当初42ヘクタールの作付面積しかなかったところ、今、なんと倍近く、70ヘクタールまで生産を広げております。生産農家は農地が足らないということで、ほかの管内にも農地を求めて動いており、うれしい悲鳴だと思

っているところです。

ただ、あぐらをかいている訳にもまいりませんので、今、ネギ部会でグローバルＧＡＰの認証取得を申請中であり、また、カットの工場においては、ＨＡＣＣＰの認証を今年中には受けられるというところまで来ております。それと併せて、ネギのドレッシングや、ワインボトルに入れた水出しのてん茶の製造などといった６次産業化を進めております。最近では、城陽の「城州白」という梅を使って、宝酒造と組んで梅チューハイを出しました。このようなことにも挑戦しながら、ＪＡとしても元気のある地域農業をつくっていこうと頑張っております。よろしくご支援をいただきますようにお願いします。

○白須正　ありがとうございました。

ここまで、森下さん、堀井さん、十川さんから、宇治茶の普及促進の取り組みであるとか、新しい商業施設を生かした地域の活性化、また京野菜を中心とした農業振興といった視点からお話をいただきました。

ここで、３人のお話を受けまして、一旦、西脇知事からコメントをいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○西脇知事　「お茶の京都」の取組は、旗頭を揚げるという意味では大きな効果があると思いますが、実はこれからが一番重要な局面に来ているのかなと思います。もともと歴史と伝統がある宇治茶であり、「お茶の京都」のターゲットイヤーのあと、どのように深化させるのかところです。パリの話もございましたけれども、まさに世界に発信していく、いわば文化と農業とのコラボ、それを是非とも引き続きよろしくお願いしたいと思います。

それから、堀井さんからの新名神とアウトレットモールのお話です。その効果をいかに市内の商業施設や南山城全体に広げるかということでしたが、ここが一番重要だと思いました。新しい山城地域の振興計画も、インフラ整備による効果をどれだけ広げていけるか、それをするために何をしたらいいのか、というところがポイントになるのではないかと思っております。これは行政だけではなく、まさにオール南山城で取り組むことになります。インフラ整備も待ったなしですので、その準備は、早ければ早いほどいいんじゃないかということを改めて痛感いたしました。

それから、十川さんのお話ですが、少し前に聞いたときは、パック工場の話はそんなに進んでおらず、やっと工場ができて、いよいよ稼働しますということだったんですけど、今聞くと、１日１万パックですか。これはすごいことだと思います。首都圏など大きな消

費地に向けては圧倒的に量がないといけない。おいしいなと思ったけど、全然売ってないじゃないかと言われたら、あっという間に信頼が下がるということがあるので、とても重要なことです。

聞くところによりますと、全国的に見てもネギの消費量は明らかに上がっており、特に白ネギではなく青ネギの消費量が上がっているとのことです。まだまだ増加していくのではないかと思いますので、それに対応していくためには、一定の品質を保った生産量を確保しないといけないということです。今、農地を求めて、他の地域にも行っておられるということですが、まさにそういうことだと思います。子供の時、親にネギ食べたら賢くなると言われました。どういう根拠か分かりませんが、体にももちろんいいものですし、是非とも今の取り組みを進めていただきたいと思います。平均年齢45歳ということで、農業が元気になるという予感がしますので、よろしくお願いします。

○白須正　ありがとうございました。

続きまして、西川克巳さんからお話しいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○西川克巳　皆さん、こんにちは。向日市観光協会会長の西川でございます。本日はよろしくお願いいたします。私は、今年度から観光協会の会長を務めさせていただいており、まだまだ若くて新人でございますけれども、観光面でのまちづくり、まちを元気にしていく取り組みを頑張っております。

乙訓というところは、山城地域の北の端でございまして、向日市、長岡京市、大山崎町、この３つの町が１つになった地域です。今日は観光協会ということで、観光についてお話をさせていただきたいと思います。

京都府では、「竹の里・乙訓」ということで、特産品の竹をＰＲしていただいております。大きな竹林がございまして、おいしいタケノコができます。そして竹にはいろんな工芸品もありまして、工芸品づくりを体験し楽しんでいただくことができます。また、大変きれいに整備されている竹林を観賞していただくこともできます。竹は「食べる、体験する、見る」という、さまざまな楽しみ方があるのではないかと思っています。このように竹を前面に出し、各市町にそれぞれにある観光資源も使いながら、さまざまなイベントも行っております。そういったイベントも活用しつつ、観光客誘致につなげていきたいと思っています。しかし、それぞれ市町の事情もあり、なかなかうまく連携ができていないと

ころもあって、今後どのようにうまく連携して、まちづくりにつなげていけるのかということが大きな課題ではないかと思います。

また、観光客誘致という点におきましては、乙訓地域は、阪急とＪＲと鉄道が２本通っています。鉄道を利用して来ていただくのは非常に便利なところですけれども、その反面、高速道路のインターチェンジを降りた後、大きな観光バスが市内へ入ってきていただくということがなかなか難しく、この辺が大きな課題となってきていると思っております。

今日は西脇知事にいろいろと要望を聞いていただけるということですので、大変楽しみにしております。

○白須正　ありがとうございました。

最後になりましたが、森正美さん、よろしくお願いいたします。

○森正美　改めまして、皆さん、こんにちは。この地元の宇治市にございます京都文教大学の教員をさせていただいております、森と申します。

日ごろ、学生ともどもお世話になっている方々が、たくさん会場にいらっしゃっていますので、お礼も込めて、普段させていただいていることをお話ししたいと思います。

私自身は大学の研究者で、文化人類学という、地域の文化や個性という違いがあるけれども、人類としてどうやってみんなで一緒にやっていけるのかいうことを考える学問を専門にしています。今日のミーティングは「行き活きトーク」ということですけども、私たちの大学の建学の精神は「ともいき（共生）」です。「ともに生き生きしよう」ということを掲げており、このお話を伺ったときに「いきいきと」というところでつながっているなと思いました。臨床心理学と総合社会学を専攻する学生たち、そして短大も合わせますと、3,000人ぐらいの学生が、宇治のキャンパスでお世話になっています。

私は京都の生まれ育ちではないんですけれども、こちらでお世話になって20年以上がたち、本当にいいところだなと思っています。学生たちは京都府出身が６割ぐらいですが、地元の子にもその良さを再認識してもらって住み続けてもらいたいし、かつ、他の地域から来た子たちにも、単なる観光地としての魅力だけではなくて、暮らす場所、生活の場所としてのこの地域の魅力というのを知ってもらいたいなと思っています。

たくさんの学生たちを連れて、いろんなところにお邪魔するんですけれども、それぞれの地域で本当に温かく受け入れていただき、お話をお聞きしております。先日も、和束町に学生とお邪魔したんですけれども、行った学生全員がファンになって帰ってくるんです

ね。そういう人の魅力、地域の魅力にあふれているところだと思うんです。そういう意味では、大学が研究・教育の拠点として、地域の魅力を学生たちの世代に伝えていく。今ここで話されている様々な先輩たちの努力を次につなげるということが、本当に大事だなと思っています。

インフラ整備は待ったなしですぐにやってくる、という知事のお話があったんですが、実は、人材育成とか人を育てるということはすごく長い時間がかかることです。それに対して、どういうふうに今の時流を読みながら、みんなで力を合わせていけるのかということがすごく大事だと思います。今、ここにもお世話になっている方がたくさんいらっしゃいますが、行政、産業界、商工会議所など団体の方と一緒に「ともいきパートナーズ」という、大学が核になってパートナーシップを組むという取り組みをしています。まず、学生たちに、こんな魅力のある企業とか、いろんな努力をしてらっしゃる方が地域にいるよ、ということを知ってもらうために、実際、現場に訪問してみるということもしています。そうしたことで、ここに住み続けたいと思ってもらえるきっかけをつくりたいと思っています。

大学の中には、小さなお子様を連れた保護者の方たちが毎日いらっしゃる「にこにこルーム」という場所があります。また、65歳以上のシニアの方が、学生として学んでいただける高齢者アカデミーという取り組みもあります。今日も、会場に何人かお越しいただいているんじゃないかと思います。そういった生涯学習の観点を持って、大学が真ん中に入りながら、いろんな方をおつなぎする役割をさせていただいているのかなと思っています。いろいろな方とお話ができますので、学生たちが何を持って帰れるのかと思って楽しみにしています。

○白須正　ありがとうございました。

それでは、西川さん、森さんのお話を受けまして、西脇知事からコメントをいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○西脇知事　西川さんのお話についてですが、乙訓地域というのは非常にコンパクトで、なおかつ、高速道路もでき、鉄道もＪＲと私鉄が入っている。それでもインフラ整備が必要と言われては、なかなか大変やなと（笑）。既に市街地となっているところでの道路整備は、実は本当に大変なんです。少し気になるのは、それぞれの市町に事情があって、なかなか連携がうまくいっていないということです。とてもコンパクトなところですから、こ

こは是非、連携していただき、まさに京都府の南西部からの入り口、ゲートウェイだという意識を持っていただきたい。さらに言えば、大阪府との連携も考えていかないと。なかなか単独ではやれない時代になっているということを改めて痛感しました。大型観光バスのことはよく伺いますので、また個別にいろいろ話をする必要があると思います。

それから、森先生。私もいろんな「京都の強み」について話をする中で、必ず大学のまち、学生のまちということを言います。先端技術や学生のベンチャーもありますし、最近では、消防団に入っている学生もいるとか、いろいろなことがあります。今の話をお聞きして、その地域の魅力発見というものを、学生だけでなくて地域の方も巻き込んでやっていただければと思います。

京都府内の学生数は、この20年ぐらい横ばいないし微増で、同じ年齢帯の人口はかなり減っています。逆に言えば、京都府内における若者に占める学生の比率はどんどん高まっているということです。（学生と地域の人が一緒に魅力発見することを）府域全体のために生かすと同時に、学生個人の幸せにもつながればいいなと思っています。森先生にお願いしたいのは、学生数は多いですが、京都での就職がなかなか難しく、府内での定着率がそれほど高くはないということです。企業・職場というだけでなくて、是非、暮らす場所としての魅力を学生に感じてもらえるような取り組みをお願いしたいと思います。

○白須正　ありがとうございました。

改めまして、５人の皆さん方からのお話を聞いて、山城の魅力、多様性、そして可能性を感じることができました。会場の皆様方も同様の思いであったのではないかと思います。

これから、さらに話を進めていきたいと思うのですけれども、１点だけ、お願いになりますけれども、先ほど会場の皆様方にお配りしました付箋につきましては、この後の準備もございますので、これからのお話を聞きながらお書きいただきまして、ご提出いただけるとありがたいと存じます。その場で合図をいただきましたら、係の者が受け取りにまいりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、山城地域をさらに盛り上げ、地域の活性化につなげていくために、これからどういうふうにしていったらいいか、また京都府に対して、さらに力を入れて欲しいということについて、パネリストの皆さんからお話しいただきたいと思います。

今回、ちょっと順番を変えまして、森さんのほうからよろしくお願いいたします。

○森正美

今、知事のほうからも就職というお話がありました。地元出身の学生たちは地元に残って働きたいと思っているのですが、やはりどんな企業があるかが、よくわからないようです。来てほしいと思っている企業もあるけれども、インターネットの情報に踊らされて、婚活と同じで、出会いの場がないということがあります。今、「ともいきパートナーズ」では、いろんな団体の方や行政も含めて集まって、どうしたらいいのかということを、膝をつき合わせてざっくばらんに話し合うという取り組みを進めています。インターンシップで行政が間に入っていただくなど、どのようにオール京都でつないでいくかということは、本当に大切なことだと思います。

それからもう一つは、子育てをしている立場として、女性や若い世代が、どの学校に行くか、どんな仕事をするか、どういう家族を持つかという、人生の大きな転機になるときに、この地域に対して「すごくいいな」と明るいイメージを持てるのかどうかということがあります。

細かな支援は行政でたくさんされていると思うんですが、この地域に暮らして、こんなふうに生活したらこんな生活ができるよという、明るい家族の笑顔みたいなものが、学生になかなか見えてこないというところがあります。別に、イメージが暗いわけではないんですけど、わかりにくいのかと思います。それがもう少し伝わるようになると、不安を抱えている、実際に子育てをされている若い世代の方が、もうちょっと顔を上げて毎日笑顔で暮らせるんじゃないかと思います。長い目で見ると結果的に、知事が冒頭におっしゃった少子高齢化とか人口減少とか、そういうところの問題解決につながっていくのではないかと思います。

そういう意味では、学生が地域に出ていけるという、１まち１キャンパス事業への京都府の支援は本当にありがたいなと感謝しています。

○司会　ありがとうございます。

続きまして、西川さんからお話しいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします

○西川克巳　先ほど知事からもお話がありましたけれども、２市１町で構成されている乙訓地域というのは、大変コンパクトな地域でございます。その中で、長岡京市は比較的インフラ整備が進んでいますが、向日市と大山崎町は遅れております。そういった点で、２市１町を大きなバスで移動するということが非常に困難な状況です。やはり観光を進めていく中で、インフラ整備がまず必要ではないかと考えております。これから５年、10年、20

年と、長い時間が必要なのかもしれませんが、是非とも進めていただきたいと考えております。

そういうことによって、例えば宿泊施設をつくるといった観光事業者、民間の方々が増えてきたら、乙訓地域全体に、多くの観光客の誘致ができるのではないかと思います。今は、乙訓地域というのは、人に来てもらうというよりも通過されているというイメージがあります。是非とも、インバウンドも含め、多くの方に泊まっていただき、乙訓地域を楽しんでいただくという、まちづくりを進めていけたらと思います。どうぞこれからも、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○白須正　ありがとうございました。

続きまして、十川さん、よろしくお願いします。

○十川洋美　京都府に対する要望を含めて、今後の取り組みについてご報告したいと思います。

直近の農業センサスでは、山城地域では、勤務よりも農業が主であるという人の平均年齢が66歳、これは京都府平均よりも2.7歳若い。山城はまだ元気だと思うんですが、それでもその程度です。加えて、私どもＪＡに結集いただいている正組合員、農地をお持ちの方の平均年齢が、何と72歳です。これから、どんどん農業からリタイアしていくのではないかということが一つの心配事であります。

今、働き方改革によって、会社での定年が65歳まで伸びてきました。70歳というのも議論されています。かつては60歳定年でしたから、退職金をもらって「よし、ごっついトラクター買って、これから農業で第二の人生がんばるで」と、地域の中で農業を引き継いでいたんですけれども、65歳、70歳になって集落に帰ってきていただいたのでは、元気がもう一つ出ないと。

そうすると、その農地を誰が面倒見ていくのかということが課題になってきます。農地を園芸農家などにも収れんさせないといけないと思うんですが。実は一番の課題は、山城管内の圃場整備率が34％と、京都府内の約半分ぐらいだということではないかと理解しています。そこを何とか進めていただくと、園芸農家も借りたいと思われるでしょうし、あるいは集落の中からも、農地の面倒を見ていきたいというような人が出てくるのではないかと。そこを何とかお世話いただきたいと思っております。それと、中山間地域をこのまま放置しますと、地域コミュニティーの維持も難しくなってくるんじゃないかなとも考え

ております。

もう一点、実は「お茶の京都」が日本遺産に登録されたおかげで、宇治市だけではなく山城管内、和束などにも外国人も含めた観光入込客数が増えてきております。そういった方に対して、農業や茶園を観光資源としてブラッシュアップしていけるような手だてが必要だと思っています。また、観光客がバスで来てトイレもないとか、茶園を見たくてもバスの駐車場がないとか、そんなこともありますので、観光インフラも整備していただけたらありがたいなと。

山城に来れば、いろんな文化遺産もありますが、茶園をはじめ、景色を楽しんでいただけますし、宇治茶や、イチゴ、トマト、イチジクなどの農産物の収穫体験もできる。あるいは本物の宇治茶を飲んだり、宇治抹茶のスイーツが食べられる。京野菜や地元の食材を使った料理を楽しめる。そんな、農業を核にした観光地域にも発展すればありがたいと思っています。

○白須正　ありがとうございます。

それでは、森さん、西川さん、十川さんのお話を受けまして、西脇知事からコメントをいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○西脇知事　その前にすみません、本日は、城陽市の奥田市長もいらっしゃっております。ありがとうございます。

では、コメントをさせていただきます。

まず、森さん、学生がインターネット情報に踊らされるという話がありましたが、先日、みやこめっせで府内全大学との就職支援協定を結んだときもその話題でした。インターネットの情報は、ほとんど大企業のものだけで、中小、中堅企業はいっぱいあるのに情報が少ないということです。企業側も、誰にＰＲすればいいのかが分からないというので、行政の役割は大きいと思います。親御さんとしては、大きな企業に行って欲しいけれど、子供さんが行きたい企業は異なるという話をよく聞きます。入社３年以内に約３割がやめてしまうというという現実もあるわけです。

それと、森先生の「明るい家族の笑顔を見せる」というお話、是非やりたいなと思いますので、引き続きのご支援をお願いしたいと思います。

西川さんのお話で出ましたインフラ整備ですが、乙訓は鉄道の駅がたくさんあってすごいですよね。大型バスの駐車場整備も、最近、一部で始まっているようにも聞いています。

都市計画道路は、通すのにすごく時間がかかりますが、きめ細かな事業であれば、わずかなお金でも効果が出るものもありますので、それもやっていきたいと思っております。是非、私からお願いしたいのは、鉄道の駅がこれだけあって、四条からも京都駅からも公共交通機関でのアクセスが良く、徒歩ででも十分散策できるだけのエリアだと思うので、乙訓全体を歩いて周遊できるような観光振興をやっていただけるといいなと思います。

十川さんからのほ場整備のお話、数字的には遅れているということで、時間はかかるかもしれませんけど、そこはやりたいと思っています。

働き方改革との関連でいけば、日本全体が人手不足なんで、全ての職種、全ての地域で、人の取り合いのようになっています。いかに効率よく、いかにその分野にマッチする人に就いていただくかが、非常に重要です。

南丹とか亀岡への移住者はすごく多いと聞きます。比較的、都市へのアクセスがいい割に農地が残っているということで、そういうことも含めて考えていく必要があると思います。サラリーマンよりも農業に向いている人は絶対にいるはずなんですよね。ですので、おっしゃるように、一定の所得、収入を得る仕組みをつくった上で、もう少し若いときから、一旦、離職された方にも入ってもらえれば良いのではないかと思います。確かに、リタイアしてからだと遅いなという感じもあるので。

それから観光インフラは、まさにそのとおりだと思います。京都と奈良の間にある山城地域は、いわゆる一次産業で稼いできた豊かな地域だったんですね。ここを基盤にしていた大名や豪族はいっぱいいたはずなんです。その資源というのは、非常に重要なので、是非観光にも生かしていきたいと思います。今度の計画にもそういう視点を入れていきたいと思います。ありがとうございました。

○白須正　ありがとうございました。

それでは続きまして、堀井さんからお話しいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○堀井美郎　木津川の左岸は学研都市ができまして、人口も定着し、これから増えていくかもしれませんが、右岸はなかなかそうはいきません。

やはり道路は非常に大事だと思います。新名神高速道路の全線開通は2023年です。その前の年にＪＲが城陽駅まで複線化されますが、アウトレット、商業施設の最寄り駅はやっぱり長池なんですね。本音を言いますと、全線ということになるのですが、アウトレット

の一番最寄り駅の長池まで、なんとか複線化をお願いしたいと思っております。こんな近くで知事に直接要望すると困られると思うんですが。（笑）

それともう一つ、木津川運動公園という大きないい施設がありますが、その北部のエリアは、京都府がサッカースタジアムをつくるというお話もあった用地です。残念ながら実現しなかったのですが、その後、城陽市のほうから、どういう形の施設を望まれますかというアンケートをいただきまして、会議所もその時勢に応じた回答をしておりました。その後、スマートインターができる、大型の商業施設が来るという話になり、大分状況が変わりました。それ以降、北部エリアというのは、ほとんど動きがありません。予算には限りがあるわけですから、ＪＲの複線化には是非お金を使っていただいて、そして北部エリアには民間の資金を活用して、大型商業施設プラスアルファの魅力ある施設を誘致していただき、南山城全体の活性化につながったらいいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

○白須正　ありがとうございました。

それでは最後に、森下さんからお話をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○森下康弘　宇治茶について、私もやって欲しいことを申し上げたいと思います。

本日皆さんには、おいしい宇治茶を飲んでいただいたと思うんですけれども、家に帰ってこれと同じものが飲めるのかどうか疑問だと思うんです。こんなおいしいお茶、どこで買えてどんなふうにして作られているのかという情報が、なかなか浸透していないんじゃないかと思っております。

今、お茶を味わうだけでなくて、いろんな形でお茶に触れてみたい、茶摘みも体験してみたいし、製造の現場も行ってみたいというニーズが結構あります。外国人観光客のインバウンドや地元の小中学校等の体験学習も含めて、新たな体験型茶園の整備構想を茶業会議所で練りつつあります。具体的な内容が固まってきましたら、是非、京都府さんの支援をお願いしたいと考えているところでございます。

また、近年の健康志向の高まりの中で、テレビの特番などでカテキンが健康にいいと言われ、その度ごとにスーパーでの日本茶の売り上げは大きく上がります。ＰＯＳデータの数値は大体２週間ぐらい上がるんですけど、またすぐ落ちてしまうことも多いです。宇治茶が健康にいい、ということは、特に取り上げられたことというのはなかったのですが、

最近ようやく、宇治茶の高級な玉露や抹茶には、テアニンの成分がたくさん含まれて、リラックス効果や認知症の予防にも効果があるんじゃないかということが研究され始めました。高品質な宇治茶ほどたくさん含まれる成分について、健康の側面からもアピールできるように取り組んでいきたいと思っておりますので、いろいろご検討いただきたいと思っております。

最後にもう一点。宇治という産地は、抹茶のブームもありますし、高級茶としてペットボトルのお茶からスイーツまで多様な展開をしています。全国の産地の中ではトップの勝ち組と言われておりますが、このまま胡坐をかいているとすぐしぼんでしまいます。

その中で、抹茶、あるいは宇治茶という言葉が、世界で認知され使われ始めております。宇治茶あるいは抹茶という言葉は、日本ではだいぶ行き渡ってきましたので、恐らく、今一番興味を持っているのは中国とアメリカではないかと思います。またインドなどでも少しずつ、抹茶という言葉が認識され始めているようです。消費拡大は、非常にありがたいことですけれども、海外、特に中国や東南アジアでは、その宇治茶や抹茶という言葉に誤用や悪用が多くなってきまして、非常に劣悪な商品も出回り始めていますし、また同時に、明らかに宇治茶という商標権の侵害行為も多々起こってきている昨今です。

日本の国内では、地域団体商標としての宇治茶を取得済みなんですけれども、海外に対しましては、今後、商標の登録やトレードマークの確立を急いで、防御していきたいと思っております。

また、中国の方々は、宇治抹茶あるいは宇治茶に対して非常に興味がおありなのですが、実際には、原発事故以降、日本茶はほぼ通関できない状況になっています。中国市場の開放も含めて、京都府さんの力をお借りしてまいりたいと思っております。

○白須正　ありがとうございました。それではお２人の話につきまして、西脇知事からコメントをいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○西脇知事　堀井さんから非常に重たい宿題をいただきました。いわゆる奈良線の複線化は、もちろん予定どおり進めております。少し延ばしてくれというお話については、なかなかすぐにはできないんですが、私もＪＲ在来線の利便向上はお願いしております。また、複線化された区間だけではなく、複線化によって、その区間の手前の単線区間の利便性まで向上することがありますし、ダイヤの組み方で全体として線路の容量はアップしますので、まず当面はそこの工夫ができるかと思います。また当然、二期工事が終われば、その次を

どうしようかということについて、ＪＲ西日本と話をしなくてはなりませんので、十分、念頭に置いておきます。

運動公園のお話もありました。昔よりもインフラ全体をめぐる状況が圧倒的に変わってきているのはまず間違いないということです。税金で何でもやるという話は、今はもうあまりありませんので、運動公園を今後どうするかということについては、民間資金の投入も含めて、幅広い見地から検討する状況に来ていると思っております。計画にどういうふうに書いていくかも含めて検討していきたいと思います。あと宇治木津線は、全力を挙げてなるべく早急に整備をするということです。

森下専務からお話のあった、小中学校等の体験学習の話は、具体的な事業の枠組みができれば、ご支援申し上げるかどうかということも含め、ご相談したいと思っております。

中国のお話もありましたが、私は復興庁の事務次官をやっておりました。まさに風評被害による農水産物の輸入の完全停止が７カ国ぐらいあります。この間、中国が新潟のお米だけ解除したということがありました。これは京都府だけでなく、外交にもなるので国にも働きかけていきたいと思います。ただ、商標が侵害されるなど、劣悪な事象への対応というのは、まさに行政の仕事です。そこは是非、防がないと宇治茶全体のブランドイメージが壊れると思っておりますので、頑張らせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○白須正　ありがとうございました。ここまでパネリストの皆さん方から、それぞれの取り組んでおられる活動、今後の取り組み、京都府への期待等についてお話しいただきました。

先ほどよりお願いしておりました、会場の方からの質問・提案がまとまったようでございます。会場の皆さんからのメッセージをパネリストの皆さんにご覧いただきまして、気になったご意見等について、それぞれ２分以内でコメントいただけたらと思います。よろしくお願いします。

多くのご提案をいただいておりますので、今、全てにお答えし切れませんけれども、事務局の方で持ち帰って、地域振興計画や新しい京都府の総合計画に生かしていくということでございますので、ご理解よろしくお願いいたします。

それでは、皆さん方、お選びいただけますでしょうか。非常に熱心なご質問を書かれていますので、パネリストの方も選ばれるのが大変かとは思いますが、よろしいでしょうか。

森下さんから順番にお答えいただいて、最後に知事にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、森下さん、よろしくお願いします。

○森下康弘　「宇治茶は世界遺産になる資産だと思うが、今後どのように進めていくのか」というご質問をいただいております。

今、世界遺産登録に向けまして、大学の先生方を含めまして、有識者の方々に集まっていただいて、委員会等を開いていただいております。その中で、やはり世界遺産として登録されたとしても、収益事業としての農業、あるいは商業を続けながら本当に景観の保全などをしていけるのかという意見も一部ございます。他の世界遺産に登録されている地域でもそういった問題が今、多々上がっているというのが実情でございますので、その流れを見ながらやっていかないといけないと思います。

まだ第一ステップから第二ステップに来たところくらいで、これからまだまだ時間がかかるかと思います。日本遺産の登録はされましたので、これからインフラの整備を含めいろんな形で整理をしていきたいと思います。特に宇治茶自体の歴史的な遺産に関しては、鎌倉時代からつくられているという言い伝えはあるんですけれども、エビデンスがきっちりと揃っていないことなどがありますので、まだまだ資料等を発掘していく必要があります。そういうことも含めて理論武装をしながら、きっちりと一つ一つ脇を固めて世界遺産に向かって努力して参りたいと思っておりますし、それ自体が、業界としての農家さん、あるいは商工業者にとって非常に大きな力になり、宇治茶を振興する力になっていくのではないかと考えているところでございます。

○白須正　ありがとうございました。

それでは続きまして、堀井さん、よろしくお願いいたします。

○堀井美郎　八幡市の方からですが、「まちの発展は基盤整備と農商工の振興と考えます。京都府において、山城各市町村の発展にご支援いただける計画としていただきたい」ということです。

農商工連携、６次産業化というのは避けて通れない道だと思っております。まちがどんどん変わっていく中で、将来を見据えて、農業も商業もいろいろ工夫していかなければなりません。例えば城陽でしたらトマト、イチジク、梅など、各市町村にいろんな特産物がありますので、それを商品化して付加価値をつけて、できたら大型商業施設で販売する、道の駅で売る、という形に持っていくのが流れだと思っております。

会議所には青年部がありまして、70名ほどの若い方ばかりがおられます。各会議所、商工会には、そのような若い方がおられると思いますし、若い方には非常に意欲があって、

少々リスクをとっても、前向きにやりたいという方が結構おられます。そういう方に将来のまちづくり、地域づくりに貢献をしてもらえたらいいなと思っておりますので、大変期待をしております。

○白須正　ありがとうございます。

続きまして、十川さん、よろしくお願いいたします。

○十川洋美　「九条ネギに次ぐ第２の産品はありますか。何か次の戦略があれば教えてください」という質問をいただきました。

九条ネギの次といいますか、平行して進めているのは「万願寺トウガラシ」です。今、７ヘクタールまで拡大をしてきました。もう１つは「花菜」で、今年４ヘクタールまで拡大してきました。どちらも京野菜です。それから、今まであまり市場に出なかった「山城のタケノコ」というのが、京都の一流の料理シェフに言わすと、これほど味のいいものはないという話です。それを今、東京にも出荷し始めましたので、そういうもので山城の農業をさらに元気にしていきたいと思います。

あと、今年、京都府が実施したおいしいお米の食味ランキングのコンテストで、何と木津川市の農政課長さんが兼業で作られた米が金賞に選ばれました。今まで山城の米は「日本晴」だったんですが、温暖化してきましたので、九州のヒノヒカリという品種でやって、これが温暖化に合ってきたようです。ナンバーワンになりましたから、山城の農業は、米も含めて捨てたもんじゃないなと思ったところです。

それと、山城広域振興局が中心になって「京やましろ新鮮野菜」というブランドをつくり上げ、管内の２４のスーパーと契約して地産地消に取り組んでくれています。そういうことで山城の農業は、さらに元気をつけていきたいと思います。答えにならないかもしれませんが、よろしくお願いします。

○白須正　ありがとうございました。

続きまして、西川さん、よろしくお願いします。

○西川克巳　ご指名いただいたものがありましたので選ばせていただきました。「今年の紅葉は光明寺に行ってきました。そして向日市の竹の径にも行ってまいりました。大変素晴らしく、京都市の他の観光地には負けていない。乙訓にある観光資源をもっともっとＰＲしていただきたい」というお話をいただきました。

私も、正にそのとおりだと思います。観光マップを各市町でそれぞれつくっておられて、乙訓地域の鉄道の駅でもＰＲしておりますけれども、全国も含めてもっと広い範囲にＰＲ

する必要があると思います。予算の都合もあるとは思いますが、これからはＳＮＳ等も利用して、乙訓地域の素晴らしい観光資源を全国にアピールしていきたいと思います。

○白須正　ありがとうございます。

それでは、森さん、よろしくお願いします。

○森正美　今の西川さんの観光の話と繋がるかもしれませんが、「これからの山城地域の発展には観光産業のさらなる発展が不可欠で、観光資源の発掘とともにＰＲがとても重要と思っています。今後の対策、対応はどのように考えておられるか」ということと、「大学と地域の連携、若い人がどんどん地域に入って新しい風を吹かせてほしい」というご意見を頂戴しているので、合わせてお話したいと思います。

観光振興とか宇治茶の世界遺産登録、その文化的背景を守ることなどはとても大切だと思い、いろいろ関わらせていただいています。一方で、例えばインフラ整備であるとか、大型バスで旅行に行くとか、そういう消費のスタイル自体が、今、大きな変革期を迎えているのではないかと思います。量は必要ですけれども、全体のパイが減っていく中で、質をどう高めていくのかということが大きな課題になっていると思います。

そういうことからいくと、例えば、観光のＰＲもインターネットを通じて、より多くの人に伝えているようでいて、実はそのインターネットのコミュニティというのは非常に細分化されています。関心のある人同士がインターネット内のコミュニティでつながっているという状況になっているので、そういう意味では、消費者ではなくて「ファン」を育てるという発想に切りかえていかないといけないと思います。ターゲットを絞った個別の戦略と、それが効果を上げているのかどうかという情報収集も必要かと思います。それぞれ、各市町でやられていることが、全体として爆発力を持たないというのは残念だなと、本当に思っています。

せっかくＤＭＯもできましたので、それぞれがされていることを、この地域全体の起爆力として、より多くの人に共感を持ってもらえるような価値として届けられるように少し組み直していただくと、若い世代が入りやすいと思いますし、生活者のレベルに立って考えていけるような仕組みが必要だと思います。

大学と地域の連携も、ただ若い学生に担い手として地域で活躍してもらうというよりは、教育機関の思いとしては、そういう学生たちを究極のファンとして育てていきたいと思っています。他の地域でコミュニティーづくりに関わってらっしゃる方などからお話を伺うと、京都では仕事がなかなかないんですよね、と言われます。大学がたくさんあって若い

人が既に京都市内にはたくさんいるので、外からプレーヤーが入りにくいということかもしれないんですけど。やはり伝統・格式がある分、何となく若い意見を聞いてもらえないんじゃないかなという空気が、どうしても出てきてしまうと思うので、是非、ファンをつくるという部分を前面に出していただけると、もっと若い人を呼び込むんじゃないかなと思います。

○白須正　ありがとうございました。

それでは、西脇知事、よろしくお願いいたします。

○西脇知事　選ぶのに困ったんですが、城陽市の方から「新名神開通後、さらにその５年先の山城地域の姿・ビジョンを示していただければ、地域も熱く目標に向かっていくと思います。10年後の夢を教えてください」とご質問いただきました。何故この質問を選んだかと言いますと、まさにそのためにこの意見交換会をやっているということだからです。

この地域は、歴史をたどれば平城京と平安京の間で、商都・経済都市の大阪と京都との結節点にあり、もともとポテンシャルがあります。インフラが一部停滞していたのが、今、つながりつつあり、新しい交流基盤が出来てきています。その新しい状況を受けて、どういうふうに地域の姿を描いていこうかというのが、今回の私どもの総合計画なんです。皆さんに「夢」と思ってもらえるかどうかわからないんですけれども、将来に向かったビジョンを是非示していきたいですし、そのためには、なるべくたくさんの方のご意見を賜りたいということで、この意見交換会をさせていただいております。そして、その計画が出来れば、みんなで目標に向かって進めるんじゃないかと思っております。

○白須正　どうも、ありがとうございました。

会場の皆様方、そしてパネリストの皆さん、本当にありがとうございました。そろそろ予定していた時間になりました。

今日は、実践面ないしは理論面でも非常に優れた５人のパネリストの皆さん方と、この「西脇知事と行き活きトーク」にふさわしい意見交換ができたのではないかと思います。

また、会場からも非常にたくさんの提案をいただきました。お答えできたのは限られましたけれども、是非これを次の地域振興計画、また新しい総合計画に生かしていただきたいと思います。私自身も先月、山城広域振興局の方に案内していただいて、いろいろ回らせていただきました。今日の話には出ていませんが、学研地域であるとか、南山城村の道の駅であるとか、さまざまな可能性が山城地域にはございます。山城地域のこれからの地

域振興計画、また新しい総合計画づくりに、皆さん方がさらに関心を持っていただいて、関わっていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

それじゃあここで、マイクを司会にお返しいたします。

○司会　白州様、本日のコーディネーターをお務めいただき、誠にありがとうございました。

最後に、西脇隆俊京都府知事から、本日の「平成30年度府民意見交換会in山城、西脇知事と行き活きトーク」の締めくくりに当たりまして、ご挨拶をお願いします。

○西脇知事　皆様、本日はどうもありがとうございました。お忙しい中、コーディネーター、パネリストの皆様、そして会場にお越しの皆様、最後までお聞きいただきまして、誠にありがとうございます。感謝を申し上げたいと思います。

今日はいつもより少し長目ではあるんですが、それでもなかなか時間が足りなくなってしまいます。インターネットも含めて、いろんな意見は募集をしておりますし、あらゆる機会にご意見を伝えていただければと思います。京都府内は本当に広いので、地域の思いはそれぞれで、いろんなことがあります。できる限り皆さんのご意見を取り入れながら新しい計画策定に向けて努力をしてまいりたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

○司会　ありがとうございました。これをもちまして、「平成30年度府民意見交換会in山城、西脇知事と行き活きトーク」を終了させていただきます。

パネリストの皆様、西脇知事、会場の皆様、長時間、ありがとうございました。